

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部		
	課名	耕地課		
	係名	土地改良係		
	記入者		電話(内線)	182

1. 事業の概要		(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	農業集落排水機能強化事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体			
① 事業の区分				市			
② 施策コード				(7) 予算・ 財源等			
基本目標(政策)				事業の性質			
基本施策				会計区分			
施策				財源区分			
施策内容				予算科目			
				予算書上の			
				事業名称			
(5) 事業期間				(8) 事務分類			
開始				自治事務			
終了				根拠法令			

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
大戦防・武井南地区農業集落排水施設	農村地域における資源循環の促進を図りつつ、農業用排水の水質保全、農業用排水施設の機能維持及び農村生活環境の改善を図り、生産性の高い農業の実現と活力ある農村社会の形成及び循環型社会の構築に努める
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
管路施設及び処理施設の修繕改修整備 ・管路施設 不明水流入箇所の修繕及び一部布設替え ・処理施設 処理方式変更による改修	

(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応
 大戦防・武井南地区は、供用開始から22年を経過し、既の実施済調査により管路施設からの不明水の流入ならびに一部路線の沈下によるたるみが確認されている。処理施設においては、硫化水素の発生に伴うコンクリート防食塗膜の剥離等の劣化が進み、電気・機械設備等については故障や腐食、対応年数の経過などが確認される状況であり、早期改修が必要な時期を迎えております

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳	事業内容	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)				
		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
(1) 事務事業費の コスト	旅費	95	0					
	委託料	5,810	2,700					
	工事請負費	10,000	113,226					
	合計	15,905	115,926					
	国庫支出金 (千円)							
	県支出金 (千円)	7,900	57,800					
	地方債 (千円)	4,700	56,700					
その他特定財源 (千円)	3,173							
一般財源 (千円)	132	1,426						
合計 (千円)	15,905	115,926						
補助・起債制度名								

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	機能強化費	目標値	千円		115,926	34,400	
		実績(見込)値		15,810			
		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	機能強化費	目標値	千円		115,926	34,400	
		実績(見込)値		15,810			
		達成率		%	%		
		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率	%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	自然環境の保全や農業用排水の水質保全、さらに農村環境の改善を図るため必要性は高い
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	共用開始より22年がたち、施設の改修を行うためには市が関与する必要がある
	手段の妥当性	A	妥当である	
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	国庫補助50%を利用し工事を行うが、起債償還年数よりもサイクルが短い。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	区域内の全受益者に便益が提供される。
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	機能改善の工事が終了するまでは現状維持である。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	27年度より2か年の継続事業で、28年度に終了する。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

機能改善することで区域内の水質保全を図ることができるが、稼働してから22年での改修となるためコスト的には課題が残る。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

より長期間機能を維持できるよう、地元管理組合並びに委託業者と連携を密にし管理していく必要がある。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	大戦防・武井南地区の水処理施設や管路施設は経年により維持管理費が増大傾向にあるため、補助金(国・県)の予算確保に努める
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり。